

## とよだより No.6

図書部

2019年も、残すところあと少しとなりました。みなさんは今年、どんな本を読みましたか？今年読んだ本でいちばんおもしろかったのは何でしょう。

さて、今年もそんな私たちの読書生活を支えてくださった方たちがたくさんいらっしゃいます。

「えほんやさん」には、今年もたくさんの本を読んでいただきましたね。自分一人では出あうことができないような本にもたくさん出あえた時間だったと思います。

そして、図書室を季節ごとにすてきな飾りで彩ってくださるボランティアのみなさんには、私たちが気持ちよく読書ができる空間や、通りかかると気持ちが華やく空間を作っていただきました。

また、11月の読書週間には、「でこぼんさん」に音楽付きで大型絵本やパネルシアターのおはなし会の時間を楽しみました。

丸山台小学校の図書室、みなさんの読書活動がたくさんの方々に支えられていること、お世話になっていることに感謝して、2019年を締めくくりたいと思います。ありがとうございました。

2020年も、どうぞよろしくおねがいいたします。

どくしょしゅうかん  
読書週間



「いろいろな分類の本を読もう」「もっと図書室を利用しよう」のテーマで取り組んだ今年の読書週間、ピンピンゴのカードを持って図書室で調べたり、分類くじをひいて「〇番の本はどこかな～」と探したりする姿が見られました。

また、先生方のおすすめや、5年生のポップを見て本を手に取り、借りていく姿もたくさん見られました。もうすぐ冬休み、本を選ぶときぜひ、参考にしてみてくださいね。

まるしょうとしょつ し ふゆやす ほん かしだし  
丸小図書室からのお知らせ ～冬休みの本の貸出について

ふゆやす としょつ ほん  
冬休みは、図書室の本のかしだしは2冊かりることができます。

としょつ ほん  
図書室の本は、12月18日(水)から、冬休みように2冊のかしだしをおこないます。

かしだしきげん す ほん てもと ひと ひと  
☆貸出期限が過ぎてしまっている本が手元にある人は、すぐに返しましょう。

その本が読みたくて待っているお友だちがいるかもしれません。

## ~12月の図書室~



図書室後方のドアを入ったところに、図書委員がおすすめする本を展示しています。

ここで全部紹介したいのですが、以下一部紹介します。ぜひ、図書室で手にとってみてくださいね。

「くまざわくんのたからもの」 きたやま ようこ 作・絵 あかね書房 Aさんのおすすめ  
くまざわくんと、いぬうえくんがでてきます。5つのおはなしがあります。そのなかで、ふたりが、けんかをしたり、なかなかおりしたりする おはなしです。

「漢文入門」 加藤 徹監修 学研 Mさんのおすすめ  
漢文といわれると、むずかしいイメージがありますが、漢文にはルールがあって、ルールがわかると、自分でも漢文を作ることができます。国語や漢字に興味ある人はぜひよんでみてください。

「二日月」 いとうみく作・丸山ゆき絵 そうえん社 Yさんのおすすめ  
ある日、妹の芽生が産まれます。でも、その女の子は病院で…。家に帰ってからもミルクをのむと はいてしまいます。さあ、芽生は大丈夫？続きは、この本を読んでね！

「みそのひみつ」 大岩ピョン漫画・オフィス・イディオム構成 学研 Kさんのおすすめ  
みそのつくり方や種類、歴史など、意外と知らないみそのひみつが、この本でなんでもわかります。みそ料理ものっているので、ぜひ読んでみてください！

「ズッコケ家出大旅行」 那須 正幹作・前川かずお絵 ポプラ社 Tさんのおすすめ  
ズッコケグループが家出をするお話です。3人で家出して、どのようなことをするのか、はらはら ドキドキする話なので ぜひ よんでください。



## ~本の紹介~ ……季節の話 人情通問によせて……

「こうさぎましろのおはなし」 佐々木たづ文・三好せき也絵 ポプラ社  
クリスマスの日、こうさぎ ましろは一番先にサンタさんからプレゼントをもらいます。もう一つもらいたくて 白い毛にすみをつけて ベつの ころうさぎになります。さあ、ましろは もう一つプレゼントをもらえるでしょうか？

「黒ねこのおきゃくさま」 ルース・エインズワース・作/山内ふじ江・絵  
冬の夜、まずしいおじいさんの家に、おなかをすかせた黒ねこがやってきます。おじいさんは、わずかばかりの食べものを黒ねこにあたえます。寒い夜の心あたたまるおはなしです。

「イチローへの手紙」 シーン・D・オキモト作/ダグ・キース絵/吉池幹太訳 河出書房  
けんかをして「オリバーなんて だいきらい。ぜったい ゆるさない」と思うヘンリー。その日、おじいちゃんとマリナーズの試合を見に行きます。「日本から来た選手をアメリカで応援する日があるなんて」と、おじいちゃんの話聞くうちにヘンリーの心に変化が…。

「わたしのいもうと」 松谷みよこ文・味戸ケイコ絵 楷成社  
「わたしのいもうとの、話をきいてください。」という手紙をもとに書かれたおはなしです。ほんのいたずらだったのにと いじめた人は思っています。そして忘れてしまいます。でも、心の傷はいつまでも深く…。

「イクバルの闘い 世界一勇気ある少年」 フランチェスコ・ダダモ作/荒瀬ゆみこ訳 鈴木出版  
パキスタンのじゅうたん工場で朝から晩まで働かされる子どもたちのお話。今もお世界中にいる「児童労働」について考えさせられます。主人公のイクバルは12歳。実話をもとに書かれたお話です。

「あのころはフリードヒがいた」 ハンス・ペーター・リヒター作 上田まに子訳 岩波少年文庫  
ヒトラー政権下のドイツ。人々はしだいに反ユダヤのあらしにまきこまれていく。その時代に生き、そして命をおとしたひとりのユダヤ人少年フリードヒを、ドイツ人少年の目から描かれています。続きの「ぼくたちもそこにいた」も図書室にあるので、ぜひ読んでみてくださいね。